

構造改革徹底推進会合「ローカルアベノミクスの深化」会合
(中小企業・観光・スポーツ・文化等)
検討の視点 (案)

- 「生産性が上がらない→賃金が伸び悩み→(将来不安と相まって)消費が増えない→地域経済が活性化しない」という悪循環をいかに断ち切るかが課題。
- まず、これまでの中小企業・地域経済政策、観光等の地域の成長分野の関連政策の取組とその効果を「総ざらい」する。

その上で、産業構造が大きく変化する中、環境変化に迅速・柔軟に対応できる特性を活かし、地域の中小企業・サービス業ならではの果たすべき役割を見定める。人手不足など日本経済の抱える課題に先行して直面する中小企業の再生は、日本経済の再生の試金石である。
- 「悪循環」を「好循環」に転換する鍵は、
 - ・ 現場の付加価値生産性を抜本的に向上させるための投資やイノベーション、人材育成を促進すること
 - ・ 金融機能の活用や一貫した支援体制の構築を通じて、生産性向上の取組や事業再生・承継、適切な新陳代謝を促進すること
 - ・ 事業性の高い地域産業や良質な雇用・賃金が、地域に投資・人材をさらに呼び込む好循環をつくること
- その際、「地域のメリット」という観点から、
 - ・ 中小企業、地域経済、イノベーション、PPPなど横断的な施策と、観光・スポーツ・文化など地域の成長分野の関連施策を、かけ算の形で一体的に進め、相乗効果を図る。
 - ・ 個々の中小企業の取組に加え、複数企業やサプライチェーンでの取組、さらには自治体、地域金融機関、中小企業支援機関、大学などが連携し、「地域ぐるみ」の取組を促す。